

令和6年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する 2 総合的な知の習得を行う 3 地域との交流を深めた教育活動を行う
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	事務局(教職員)	名
	生徒	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価(令和6年1月11日現在)		実施日(令和6年2月6日)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	令和3年度に入試の倍率が定員割れを起こして以来、広報活動に力を入れている。その結果、令和6年度入試は1.2倍となり、入学時の学力は上がっている。一方で杉戸高校は生徒をどこまで引き上げていくかという学校全体としての意識が共有され切っていないと言えない。教員個人の頑張りではなく組織としての取組を強化していくことが不可欠である。	①教員の目線合わせ ②教員研修の機会の充実	①進路指導部を中心に、進学校として、どういう偏差値の大学を意識して授業展開していくかを統一する。 ①教科を中心に杉戸高校ではどういった力を伸ばしていくかを議論し、3年間を見通して、各時期につけさせる力を可視化する。 ②教員相互に授業見学する機会を設け、授業改善を行う。 ②予備校の主催する教員研修や、教育センターの開催する希望研修を活用して、教員個人の能力の伸長を図る。	①進路指導部で各教科、各学年におろす統一した見解を打ち出すことができたか。 ①各教科で、学年ごとにどういった力をつけさせるかがわかる指導計画が作成できたか。 ②教員相互に授業見学をして自己研鑽を積むことができたか。 ②教員一人一人が個別に研修する機会が増えたか。				
2	新型コロナウイルスの猛威がなりを潜め日常が戻ってきた今、これまで規制をかけていた、対面での活動や学校行事を元に戻していく必要がある。人とのかかわりを重視し、体験する機会や異なる立場からの人から学ぶ機会を充実させることで、座学だけでなく生きていく上で必要となる総合的な知の習得を図っていく。	①学びの意識化と心の教育の充実 ②学校行事の充実	①入学当初の「スタートアップ・プログラム」により、1年生全員に新しい学びについて意識化をさせる。 ①多様な価値観を認め、健全な心を育む、在り方生き方教育を推進する。 ②文化祭の制限を緩和し、より生徒の希望に沿った形で実施することにより、生徒の主体性を育む。 ②外部講師を使って進路について考える機会を作り、生徒の学習に対するモチベーションを向上させる。	①「スタートアップ・プログラム」実施直後の、生徒アンケートによる満足度は高かったか。 ①在り方生き方教育は、本校の生徒の実情に応じたカリキュラムと教材のもと、計画的に実施されたか。 ②生徒が文化祭に対するアンケートで満足度が上がったか、またその理由として、主体的に活動できたことを挙げたか。 ②講演会後のアンケートで意識の向上が見られたか。				
3	本校のように地元からくる生徒も多い学校では、地元で愛され、良好な関係を保つことが重要である。幸いにして、地元地域からは生徒のマナー、行動について一定の信頼と評価を得ているものの、しばしば地元住民から意見をいただくこともある。生徒のモラル、マナーを向上させ、地元地域に還元できるよう取組を行う必要がある。	①生徒自らの行為を客観視させる指導 ②地域連携の強化	①登下校時の交通マナーを向上させるとともに、自らの行動を客観視させ、生徒個人の自律を促す。 ①地域、保護者からの助言、指摘から情報を得て、生徒の実態に即した個に応じた指導を行う。 ②杉戸町役場や近隣の中学校と連携し、「総合的な探究の時間」で地域が抱える諸課題について具体的に理解を深める。 ②小高交流事業を推進し、校内の部活動と近隣小学校との交流を計画的かつ積極的に推進する。	①登下校時の生徒のマナーについての苦情が減ったか。 ①保護者アンケートやいじめアンケートなどから問題を未然に防ぐことができたか。 ②杉戸町役場や近隣中学校との連携や交流はなされたか。 ②小高交流事業は実施され、地域との連携や親睦を充実させることはできたか。				